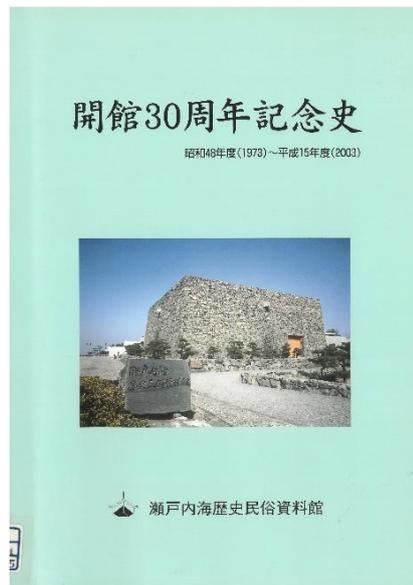


開館 30 周年記念史

昭和 48 年度(1973)～平成 15 年度(2003)



発刊にあたって(抜粋)

瀬戸内海歴史民俗資料館は、昭和 48 年 11 月 3 日に開館し、今年 30 周年を迎えました。当資料館は、全国でも数少ない広域資料館として、瀬戸内地方の歴史、民俗、考古に関する資料の収集や展示、調査、研究を行ってきました。

資料収集では、現在約 13 万点に及び、中でも漁業に関する資料は全国に誇れるもので、漁撈用具や船大工用具など 2 件、5656 点が重要有形民俗文化財に指定されています。また、大型木造船 34 隻も収蔵しています。

調査研究では、歴史・民俗・考古それぞれの分野における「瀬戸内地方の暮らしと文化」をメインテーマとした研究の他に、昭和 53 年から 57 年の瀬戸内の海事史資料調査(第 1～第 5 集)、平成元年から 4 年の香川県歴史の道調査(第 1～第 12 集)、平成 8 年から 9 年の香川県の民族芸能緊急調査なども実施し、その成果を研究紀要や報告書にまとめ刊行してきました。

教育普及では、その時々の資料収集・調査研究に関連した企画展や講演会・講座を開催したのをはじめ、親子体験学習、県民自らが当館施設を利用して行う展覧会など多岐にわたって活動してきました。

また、本年は当館開館 30 周年と当館ともの海創立 25 周年の共催事業として「暦民の灯台」を設置しました。これは高松港で焼く 30 年間海の安全をまもってきた赤・白灯台の灯ろう部分を活用したもので、民俗資料の野外展示物として、子供たちが中に入ってたのしんだり、触れたり、体験して学ぶこれからの資料館の船出になればと思っています。

そしてこのたび、開館 30 周年を記念し、これからの歩みをまとめた詳細なる記録を「記念史」として発刊することになりました。先輩たちの努力と情熱によって積み上げた数々の業績を知っていただくとともに、その利用の手引きとして多くの方々にご活用いただければ幸いに存じます。

平成 15 年 12 月

瀬戸内海歴史民俗資料館長 真鍋隆幸

(7100933832)